

平成30年3月5日

富士見市議会議長 尾崎 孝好 様

文教福祉常任委員会  
委員長 斉藤 隆浩

### 所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務調査として下記の事項について、調査を終了したので富士見市議会会議規則第109条の規定により報告します。

#### 記

- 1 実施期間 (1) 平成30年2月6日(火)  
(2) 平成30年2月7日(水)
- 2 調査事項 (1) 教育現場の視察について  
(2) 学力向上の取り組みについて
- 3 調査結果 別紙のとおり
- 4 委 員 委員長 斉藤 隆浩 副委員長 根岸 操  
委 員 佐野 正幸 委 員 村元 寛  
委 員 加賀 奈々恵 委 員 加藤 清  
委 員 小川 匠

## 別紙

### 【富士見市の学力向上の取組みについての調査結果】

#### 1. はじめに

今年度、本委員会は所管事務調査（行政視察）として先進地の視察を行うとともに、11月に開催した議会報告会においては、調査事項をテーマとして、市民との意見交換会も行った。その結果、さらなる調査が必要との判断から、今回、所管事務調査を実施した。

本委員会では調査を効率的に進めるため、事前に所管事務調査のあり方とその進め方を協議し、次のように確認した。

- (1) 教育現場視察の実施
- (2) 教育現場の視察後、委員会を実施。その際、主な質問事項及び資料の要求について、事前に担当部署に依頼し、委員会において報告を求める。
- (3) 本委員会が今年度実施した所管事務調査（行政視察）及び議会報告会での調査事項に関する参加者からの意見・要望等について、参考資料として事前に担当部署に提供する。

なお、委員会には、執行部から北田教育部長と辻口学校教育課長が説明員として出席した。

#### 2. 教育現場の視察について

平成28、29、30年度の取組みとして、埼玉県教育委員会が行う「考え、話し合い、学び合う学習実践協力校授業研究」の実践協力校に指定されている関沢小学校と西中学校の公開授業を視察した。

特に新しい学習方法として取り入れたアクティブ・ラーニングを中心として、各委員から次のような意見、感想、課題等が出された。

##### (1) 取組みの成果についての意見・感想

- ・「考え、話し合い、学び合う学習」のもと、生徒一人一人が自分の考えをまとめ、話し合い、答えを導き出していく授業は、学力向上に大変有意義な取り組みと思う。
- ・授業の理解を深めるために、それぞれの教師が工夫を凝らした授業を行なっている姿を視察し、教育現場の熱意と共にご苦労を知る事が出来た。
- ・授業では、グループに分かれて自分達の考えを発表し合い、テーマに沿ってまとめていく作業を行っていたが、どのグループも活発に意見交換をしているように見受けられた。
- ・社会科は「暗記」という性格が強い（テスト対策として考えてしまうと）が、このような形態の授業であれば、単純な暗記科目ではなく、社会を自分が生きている日常と引きつけながら学ぶことができると思った。
- ・同じ単元でも、教員ごとにアクティブ・ラーニングを取り入れた工夫を凝らした授業の組み立てがされており、児童生徒の理解度向上に繋がっている

る様子が確認できた。

- ・授業内容では、和やかな雰囲気の中で、先生が一方向的に教えるのではなく、課題について数人のグループで、お互いの意見を出し合いながら答えを導き出していくというものであり、これまでの授業と違い、子ども達が主体的と同時に対話的であり、学び合う取り組みが印象的であった。
- ・西中学校では、これまでの授業の在り方を、知識・技能の習得を中心とする一斉指導型が、満足度や達成感が持てない原因とした。そして自分・相手・集団と考えを発展させ、基本的な流れを整理して取り組めたことが成果だと感じた。
- ・関沢小学校では、「考え・話し合い・学び合う学習」の実現のなかで、明確な課題の設定では、計画的・継続的で学ぶ意識や学習内容の理解向上。話し合い活動では、意見の広がり。学習の振り返りでは、自分や他者から学んだことを伝え合うという成果が見られた。
- ・今後の受験の傾向として、記述式が主体になると言われていることから、知識と同時に考える力を養うことが求められる。そのことから、グループ構成の学習や掲示物などを活用するなど、積極的な発言や他者の意見を踏まえた発言で学び合い、楽しみながら学力の向上につながり有効であるものと感じた。
- ・実際の現場（授業）をみさせていただくと、驚きが沢山あった。アクティブ・ラーニングをみると、一人一人の個性を生かすため、話し合いの場が多くみられた。
- ・付箋を使用するなど、私が学んできた時代とのギャップを感じた。
- ・教師と生徒がとてもフレンドリーに感じた。

## (2) 課題について

- ・こうした授業の結果を反映する中間・期末テストなどどのような形で行われているのか、気になった。
- ・グループが多いので、このような形態だと教員1人で教えるのは大変ではないか。
- ・このような取り組みが、「学力向上」の名のもとに、単に学力テストの結果にどう反映したかなど短絡的な評価に結びつけられないことを願う。
- ・指導要領はしっかりしているが、型通りに授業を進めてしまうことで、授業の流れについてこられていない子どもも一部に見られた。これは教員の経験の長短というよりは、子どもたち個々へのかかわり方が大きいと思われる。教員個々の授業の進め方に対するアセスメントとフィードバックの重要性を感じた。
- ・子ども達の能力を教師1人では把握できなく、成績などをどのように見極めていくのか。また、きめ細かな指導を今後も取り組むに当たり、教師に今まで以上の負担が生じるのは確実に、授業をサポートする体制をどう解決していくのか課題も感じた。

- ・授業中にどのような展開になるのか未知数な気がした、教師のモチベーションそしてレベルの差により、子どもの受け方が変わるのではないか。
- ・本市の教員のレベルの高さを感じたが、現在は経験の少ない教員が増えており、今後も若手教員育成指導の充実が必要と感じた。
- ・個人差に対しての工夫など教師側の対応。
- ・教員育成のプロセスとゴールの明確化と検証。

### 3. 学力向上の取り組みについて

学力向上策として、基本目標「児童生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導による学力の育成」を達成するために、サブタイトルには「認め、励まし褒め、人ひとりの学力を伸ばす教育」とし、「主体的・対話的で深い学び」に取り組んでいる。内容としては1. 児童生徒の学力向上 2. 教員の指導力向上 3. 非認知能力の向上 を3つの大きな柱として、さらにそれぞれの項目には具体的に分かりやすく、透明性のある様々な施策が用意され実施しているところである。

委員会ではこのテーマについて、執行部から下記資料に沿って説明を受けた後、質疑応答を行った。

#### 【説明資料】

- 資料 報告用「富士見市の学力向上策」
- 資料1 「県学力学習状況調査結果」
- 資料2 質問紙調査分析【小学校】、質問紙調査分析【中学校】
- 資料3 富士見市立学校のめざす授業
- 資料4 特色ある取組

\*資料は別紙添付

#### (1) 委員会での主な質疑応答

- Q. アクティブ・ラーニングの学習方法について教員の意識調査とは。
- A. 学力・学習状況調査のタイミングで教員にアンケート調査を実施している。
- Q. 学力テストの結果を「学力向上」の基準にすることは、教育行政にとって良いことだとは思えないが。
- A. 子ども達の学力はそれだけではない。一人一人の学力の伸びを大切にし、それと同時に知、徳、体をバランス良く育成を図っていく。
- Q. 学力テストの結果を受け、どこが弱いのか、どこで間違えたかを踏まえ、きちんと生徒のフォローが出来ているのか。
- A. 県の学力調査の問題は公表されていないので、どこが間違っているのかまでは分からないが、学力レベルという数字が出てくるので活用している。

- Q. 資料1の「県学力学習状況調査結果」で中学2年、3年は県平均を上回っているが、富士見市の第1次教育振興基本計画の成果と捉えてよろしいか。
- A. 教育委員会の施策と学校の努力の成果かなと思っている。
- Q. アクティブ・ラーニングの授業を進める上で一人一人を把握するのは難しいのでは。
- A. ワークシートを使うなどの工夫をしている。また、アクティブ・ラーニングの学習法は単元の一部であり、途中、途中でも評価している。
- Q. 通知表の作成についてはどのように評価しているのか。
- A. 3つの観点(知識・技能)(思考力・判断力・表現力)(人間性・主体性など)とペーパーテストも含め総合して評価している。
- Q. アクティブ・ラーニングをどのように学力向上につなげていくのか。
- A. 協働学習の方が、学力が伸びると科学的に証明されている。また、楽しく、規律があり、何でも一生懸命やっという雰囲気大切だ。その2つの面から学力向上に取り組んでいる。
- Q. 家庭学習についての支援は。
- A. 家庭学習の手引きというものを作成し配布して家庭学習が定着するように工夫している。
- Q. 視察で教員の熱意が伝わり素晴らしいと感じているが、負担も多いのでは。
- A. 良い授業にしようと思うと教材研究には時間がかかってしまう。しかし業務改善について今協議している。
- Q. 授業内容について、フィードバックは全ての教員にあるのか。
- A. 全ての教員が授業研究会などで授業を公開して見合い、そこでフィードバックを行っている。若干個人差はあるが、皆で良くしようとしている。
- Q. 少人数学級の取り組みの議論はあったか。
- A. 少人数できめ細かい指導ができる反面、体育や音楽等の活動が少し寂しくなると考える。予算面の課題もあり市独自の取り組みは行っていない。

## (2) その他

教育現場の視察では、小中連携の取り組みの詳しい調査までにはいたらなかった事もあり、小中連携に関して委員からは、中学校の教員が小学校でも教えるのは児童の反応も良いと思われ期待できるという意見と、小中連携、小中一貫教育については、現時点ではその必要性を強く感じるには至らなかったという意見もあった。

また、学級経営について、ぜひ少人数学級を進めてほしいという意見やアクティブ・ラーニングを含めた第2次教育振興基本計画でのさらなる学力向上に期待するという意見もあった。

#### 4. まとめ

今回の教育現場での学力向上についての視察では「考え、話し合い、学び合う学習」という取り組みの中で、アクティブ・ラーニングという新しい学習方法を視察することが出来た。グループで話し合う様子は正に子ども達が主体的、対話的で深い学びを体験する姿であった。個人思考→協働思考→個人思考の流れは、見通す→取り組む→振り返る事を継続することであり、子ども達が活発に授業に参加する様子を見ていると、個人で勉強をするだけの学習よりも单元の中で協働学習を取り入れた方が、学力が向上するという科学的研究結果が出たという説明にも納得が出来た。

ただし、生徒一人一人へのきめ細かいフォローや教材準備、あるいは指導力向上など、教員の負担が増えるように感じるところもありバランスの良いコントロールが管理する側にも求められる。今後については、今回の実践協力校としての取り組みを検証するとの事だが、点数だけでなく様々な視点からの分析を行っていただきたい。

また、今までの富士見市の学力向上の取り組みについても説明があった。委員会で示された資料では、既に中学2年、3年生の学力の伸びや平均正答率では県平均を上回る結果を出している。このことから富士見市の教育委員会及び学校の教育現場の教職員の取り組みは、成果を出していると判断出来る。今後も新しい学習方法、あるいは小・中一貫教育などの工夫と今まで培って来た富士見市の教育力と合わせ、子ども達のますますの学力向上と豊かな人間性育成の為の教育政策の推進を期待する。